

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生徒たちが『入学してよかった』と思える学校、保護者に『入学させてよかった』と提供いただける学校、
卒業生がすばらしい『母校』と思える学校、地域の方に『一緒にがんばろう』と提供いただける学校」をめざす。

- 1 生徒の自己実現に向けた教育活動により、夢と志を持った生徒を育成する。 (目標あるキャリア教育)
- 2 人権尊重の精神に基づいて、モラルやマナー面での社会的な人間力を育てる。 (人権教育をふまえた社会的実力の育成)
- 3 地域や保護者等との信頼に基づいた連携関係を構築して教育活動を展開する。 (社会に開かれた学校づくり)

2 中期的目標

1 確かな学力の定着

- (1) 工夫ある計画的な展開やICTを活用した授業の拡充等により魅力ある授業づくりを推進し、学びの意欲を高め基礎学力の定着を図る。
- (2) 授業研究委員会を核に「SK勉強会」などの授業研修を実施することで校内の研究授業等を充実させ、経験の多少によらず授業力の向上を図る。
*生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い。」(H30: 59.6, R1: 64.3, R2: 69.5%) に関して令和5年度には75%以上をめざす。
*生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい。」(H30: 55.4, R1: 57.1, R2: 63.6%) に関して令和5年度には65%以上をめざす。

2 多様な進路の実現

- (1) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立し、早期に進路目標を意識させる指導を行う。
*生徒が卒業後に自己実現に向けての準備をするケースを除いて、進路未決定率 (H30: 2.9, R1: 4.4, R2: 3.4%) に関して、令和5年度には2%をめざす。
*大学進学を希望する生徒に力をつけて、令和5年度には一般的な難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒5名以上を育てることをめざす。

3 社会に貢献する人材の育成

- (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。
ア 社会的なモラルやマナーを遵守することの大切さを理解させて、社会的な実力を育成する。
イ スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) を活用した教育相談体制を確立させ、個々の生徒への支援体制を充実させる。
*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等基本的習慣の指導確立項目 (H30: 61.4, R1: 66.4, R2: 72.3%) に関して、令和5年度までに75%をめざす。
*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目における満足度 (H30: 58.5, R1: 63.7, R2: 65.0%) に関して、令和5年度には68%をめざす。
- (2) 特別活動を充実させ生徒の参加を促進することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに、学校への帰属意識を高める。
ア 学校行事や部活動において、生徒の自主性を高めるとともに、集団の中で他と調和しながら行動する能力を育成する。
イ 「堺上高杯」等において地域や小中学校とのさらなる連携を図ることを通して、生徒に自尊心とボランティア精神を育む。
*生徒向け学校教育自己診断における行事に対する満足度 (H30: 66.3, R1: 67.9, R2: 70.9%) に関して、令和5年度には75%以上をめざす。
*生徒の入部率を (H30: 36.7, R1: 41.2, R2: 44.7%) を毎年1ポイント以上引き上げ、令和5年度には48%以上をめざす。

4 校内運営体制の改善と人材の育成

- (1) 組織業務の見直しを行い、精選と簡素化、業務量の検討を行なうことで体制の強化と「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図る。
- (2) 本校独自の「SKミーティング」「SK勉強会」等を開催し、教員力育成事業を推進することにより育成システムを構築する。

5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進

- (1) 地域の中学校等への広報の充実に努め、更なる連携を推進する。
*知名度を高め魅力を発信すべく「堺上高杯」への参加校及び中学生数 (H30: 49校852名, R1: 33校758名, R2: 中止) に関して、新規の参加校開拓などを行いながら令和5年度まで同水準の数値を維持することをめざす。
- (2) 保護者が積極的にPTA活動に参加できるよう、PTA活動内容の精査を行いさらなる充実を図ることにより、学校の教育活動への理解を深める。
*PTA主催の研修への参加率 (H30: 63.6, R1: 50.0, R2: 66.7%) に関して、令和5年度には70%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着	(1) ICTを活用した工夫ある授業作りの推進 (2) 組織的な授業改善の推進	(1) ・新型コロナウイルス感染症対策及び1人1台端末の導入に向けて、本校生徒の実態をふまえたうえで、学習内容に対して達成感を持たせることができるように、効果的な場面でのICT機器の活用、対話的な視点に基づく学習活動などを行う。そのことを通して、工夫ある教科指導による授業づくりに取り組む。 (2) ・新学習指導要領を踏まえて「観点別学習状況評価」を進めるとともに、授業研究委員会を核として授業実践に向けた教員研修の実施や、授業見学及び研究協議を充実させ、生徒の学習活動に関する課題を教員が共有化することにより、同僚性を活かした授業改善を図る。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い。」を70%以上に。[69.5%] (2) ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」を64%以上に。[63.6%]	
2 多様な進路の実現	(1) 生徒の実態に即した、早期に目標を意識させることによる多様な進路指導の充実	(1) ・外部講師等による進路講演会の実施や就職支援コーディネータの活用、内定者指導、進学講習など、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・4年制大学、医療看護系、就職関係など個々の進路に応じた個別講習を実施する。 ・漢検、英検、パソコン検定の受検促進を図る。	(1) ・実力的に難しい私立大学、国公立大学にチャレンジする生徒数について前年度より増をめざす。 [3名] ・進路に関する講習参加者に関して同水準を維持する。 [78名] ・R1の漢検19名、英検30名、R2のパソコン検定44名の受検数について、増加をめざす。	

<p>3</p> <p>社会に貢献する人材の育成</p>	<p>(1) ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上</p> <p>イ 個々への支援体制の強化</p> <p>(2) ア 特別活動の活性化</p> <p>イ 部活動等における地域や小中学校などとの連携</p>	<p>(1) ア・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続しつつ、個々のケースの原因の解決にあたることにより、遅刻数の減少に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路実現などとも関連させて、服装等身だしなみの指導の強化を図る。 自転車通学者が非常に多い状況を鑑み、大阪府の自転車条例をふまえ、自転車事故防止やマナー向上のための講習会を、警察等と連携して実施するとともに、駐輪指導をはじめとする自転車関係の指導を強化する。 <p>イ・SCとSSWを活用した教育相談体制を充実させ、個々のケースに迅速に対応できる能動的な組織の確立に努め、外部機関との適切な連携を図る。</p> <p>(2) ア・新型コロナウイルス感染症対策をはじめ体育大会や文化祭等の学校行事のあり方に工夫を加えて、生徒の学校生活の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 堺上高杯での中学生への奉仕活動により、本校生徒自身のマネジメント力を高めるとともに、自己肯定感を醸成する。 入学後の体験入部等の実施方法を充実させて、1年次の加入率を上げる。 <p>イ・「堺上高杯」を組織的に充実させ、地域の学校との連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や小学校などのイベントへの参加要請があれば、積極的に参加して、地域の方々と交流を図り、学校を理解していただく。 	<p>(1) ア・遅刻統計の総数で前年度(6800回)の10%減をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断での生活規律等基本的習慣の指導確立の項目について同水準の維持をめざす。 [72.3%] 自転車事故報告件数について、0件をめざす。 [5件] <p>イ・生徒向け学校教育自己診断での相談できる先生がいるについての肯定度を65%以上に。 [65.0%]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断の行事満足度を70%以上に。 [70.9%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校部員が中学生に奉仕する堺上高杯の現状を維持する。 1年次の加入率50%以上をめざす。 [52.7%] <p>イ・第6回「堺上高杯」を計画的かつ組織的に実施し、同水準の維持をめざす。(R1は758名、R2はコロナウイルスの影響で実施せず)</p> <ul style="list-style-type: none"> 要請等があれば学校行事等と重ならない限り、積極的に参加する。(R1は3回、R2はイベントすべて中止) 	
<p>4</p> <p>校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1) 業務の精選などによる働き方の見直し</p> <p>(2) 教員の教育力育成</p>	<p>(1)・業務内容を整理し、分掌改編を行うなど、精選と簡素化、業務量の検討を通して組織体制の強化と「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図る。</p> <p>(2)・職員研修や独自のミーティングを実施して分掌業務や担任業務等に関する教員の教育力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に係る対応や人権研修等の教職員研修の実施に際し、外部講師を積極的に招聘するなどして、生徒の自他尊重の精神向上に結びつく(講師例:SC、SSW)等、学校の実情に即した内容となるよう創意工夫を行う。 	<p>(1)・業務内容の精選に向けて、経営会議や運営委員会などで検討を行うとともに、一定時刻以降の業務申告制を管理職が毎日実施し、時間外勤務月80時間以上の延べ教員数を17人以下にする。 [17人]</p> <p>(2)・定例の職員研修以外に独自の「SKミーティング」を3回以上実施する。 [3回]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け学校教育自己診断での校内研修の教育実践有効性を問う項目で同水準の維持をめざす。 [70.3%] 	
<p>5</p> <p>広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進</p>	<p>(1) 広報の充実と地域他校種とのさらなる連携の推進</p> <p>(2) 学校理解に結びつくPTA活動のさらなる充実</p>	<p>(1)・出身中学校に対しての広報に努めるとともに、3月に新入生の状況把握を行い個別の支援の一助とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新着情報、フォトギャラリー等ホームページの内容を充実させることで、タイムリーに情報を発信する。 機会あるごとに校長によるブログを発信することで、本校の教育活動についての理解を深める。 連携した取り組み(イベント等への参加など)の要請があれば、積極的に参加して交流を図る。 <p>(2)・PTA主催研修の内容の見直し検討を実行委員会などと一緒にしながら、参加促進を図るとともに、体育大会と文化祭の折に、PTA保護者に積極的に関わっていただくことなどを通して、保護者の本校への理解を深めていただく。</p>	<p>(1)・出身中学校と連絡を取り、資料の配付をするとともに生徒の状況把握を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校HPのアクセス数で同水準をめざす。 [80603件] 校長ブログを60回以上更新する。 学校教育自己診断の該当項目での肯定的回答値60%をめざす。 [R1は55.3%、R2は中止] <p>(2)・PTA主催の研修参加率について、定員の68%以上をめざす。 [66.7%]</p>	